



## 令和3年度放射線安全取扱部会 年次大会へのお誘い



令和3年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員長 杉原 真司

令和3年度放射線安全取扱部会年次大会（第62回放射線管理研修会）を令和3年10月28日（木）、29日（金）に、Web大会として開催します。本年次大会は九州支部が実行委員会を組織し昨年熊本で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため1年延期し、対面の大会を熊本で開催する準備を進めてきました。しかし、感染拡大の状況は極めて厳しく、改めてWeb大会として開催する運びとなりました。熊本でお会いすることがかなわず残念ですが、今般の事情のもとご了承ください。

年次大会のテーマは「実践しましょう！“正当にこわがる”ことを」です。この“正当にこわがる”は、熊本の五高出身の寺田寅彦氏の言葉の一節です。福島原発事故から10年、熊本地震から5年、熊本豪雨災害から1年の今年、改めてこの言葉をテーマとして掲げ、昨今の頻発する災害等に対する部会員等のありかたについての正しい認識を共有する大会にしたいと考えています。

大会1日目では、部会総会及び功労賞・放射線安全管理奨励賞の表彰式の後、特別講演1として毎年恒例の原子力規制庁による「最近の放射線安全規制の動向」についての講演です。法令改正への対応や、コロナ禍における新しい放射線安全管理体制等日頃交流が制限されている管理者にとっては情報収集の絶好の機会になると思います。

シンポジウム1では、「福島原発事故から10年その現状とわかったこと」と題して、除染の状況、農作物への影響、処理水の現状、被ばくの低減事例等の事故後10年間の現状等を紹介していただきますので、放射線安全管理者としての正しい情報を収集してください。

シンポジウム2では、改正RI法やコロナ禍に対

する対応等、放射線関連施設におけるチャレンジングな取組みを口頭発表で紹介していただきます。これは、Web大会開催に伴って、従前のポスター発表を口頭発表に変更したものです。チャレンジングな取組みを是非発表していただき、参加者の皆様で共有し、発展させたいと思います。なお、従前の分科会、専門委員会、支部委員会等の報告についても2日目のシンポジウム2-2で行います。

1日目の最後にはWeb交流会を開催します。

大会2日目は、企画専門委員会のシンポジウム3で、「知識の伝承—放射線施設のライフプラン—」から始まります。

特別講演2は、熊本ならではの話題を提供します。熊本大学の松田博貴氏に「熊本地震から5年〜どのようにすれば災害・教訓を伝え続けられるか」と題して講演いただきます。

特別講演3では、熊本大学の岡田誠治氏から「超免疫不全マウスの生命科学研究への活用」と題して講演いただきます。

相談コーナーを各日お昼休みに開設します。専門家が個別に相談に応じますので、奮ってお申し込みください。

本年次大会には、全国の放射線取扱主任者並びに放射線安全管理実務担当者が参加されますので、日々の放射線安全管理に役立つ情報の活発な交換の場となることを願っています。コロナ禍により対面の開催はできませんが、放射線安全管理に携わる多くの皆様方のご参加を実行委員一同心よりお待ちしております。

（九州大学アイソトープ統合安全管理センター）